

鳥海ダムだより



国土交通省東北地方整備局鳥海ダム調査事務所

2007.11
第15号



今を未来に

由利本荘市鳥海総合支所長

植村 清一

毎年、南由利原と花立公園内において、石油資源(株)と(株)東京証券取引所の両社による広葉樹を中心とした植樹・保育作業が行われております。この事業は、地球温暖化防止に対する社会貢献の一環として実施されているものですが、特に今年は、両社長さんのお計らいで小学生、一般市民を対象に講演会も開催されるなど、地球環境への認識を新たにする機会になりました。

かつてこれまでないほどに、地球環境への関心が高まってきております。特に森林の持つ「災害を未然に防ぎ、水源を涵養する機能」や「二酸化炭素を固定安定化機能」などが一層見直されており、「森づくり」の活動が高く評価されております。

それにしても、今年は暖冬に始まり、5月には30度以上を記録し、秋には数年来、経験ないほどの集中豪雨で甚大な被害が発生しました。突発的に悪条件が重なった一過性のものでないかと思いたいところですが、身近なところで何かを感じる現象が出てきていることも事実であります。

鳥海地域の山菜採りのベテランは、きのこ等の収穫の周期がずれてきていると言い、花卉農家は生育が早まり適期に販売できな

いと嘆き、りんご農家は朝夕の寒気が遅く、赤く色づかないとこぼしておりました。

地球の疲れを癒すには、将来ではなく、現在の問題と捉えて、世界規模で大気中の温室ガスの削減に努力すると共に、一人ひとりの暮らしの中での協力が欠かせない状況にあります。そして、常に、あらゆる気象変動に対しても、今の市民生活や生産活動の維持に影響の出ないような備えも重要な問題であります。

水は天与の賜物とたたえられております。子吉川の水も流域の人々に数限りない恩恵を与えてきました。しかし、突然の猛威を見せつけることもあります。特に近年の地球温暖化の影響か夏の早くからの渇水もあり、また、ひとたびの降雨が洪水として牙をむきます。

穏やかでやさしい子吉川が、いつまでも天与の賜物であり続けるためには、水の治まりはどうしても必要不可欠であります。その役割を果たす鳥海ダムが完成する時、これまでの長い歴史の中で、異色の光芒を放つ瞬間となるだろうと願っております。

川に親しみ、遊び学んだ子吉川フェア

～ 第12回子吉川フェア開催される～

7月21日、第12回子吉川フェアが由利本荘市ボートプラザアクアパル、由利本荘市友水公園で行われ、「第14回子吉川に親しむつどい」が同時開催されました。

子吉川フェアは、川に親しみを持ち、愛される川づくりを進めていくための交流の場にしようと平成8年度から始まったイベントです。

今年は、「川遊び 時間も忘れて 無我夢中」(第11回子吉川フェア川柳コンクール最優秀賞作品)が副題となっています。あいにくの雨天でしたが、屋内外のイベントに沢山の来場者がありました。

物産コーナー、フリーマーケット、カヌー体験教室、魚のつかみどり大会、チビッコ1マイルレース・ミニマラソン、川柳コンクール作品展示、など多種多様で、当事務所では、鳥海ダムのPRのほか、「子供用キーホルダー作り」を行いました。子供達の作品のできばえも上々で、子どもから大人まで楽しんでいました。



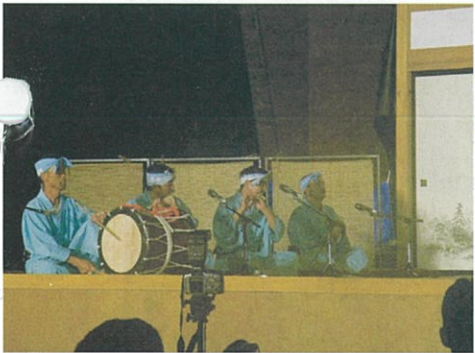
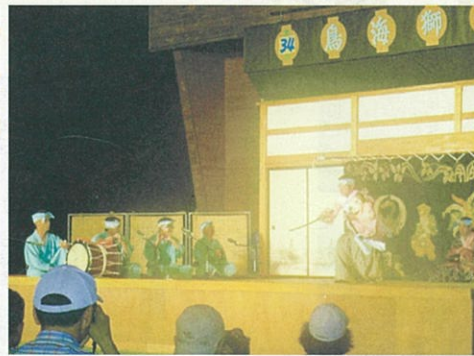
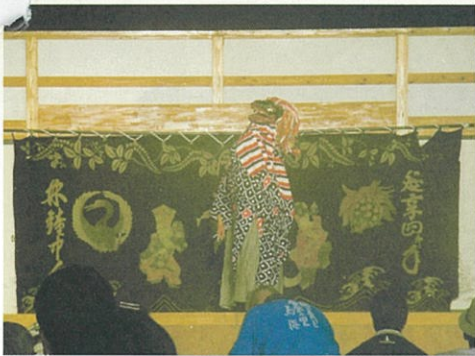
鳥海の伝統芸能「獅子舞と番楽」

～鳥海獅子祭りを開催～

鳥海地域で380年もの間受け継がれてきた獅子舞と番楽が競演する「第34回鳥海獅子まつり」が8月16日、鳥海健康広場「特設ステージ」で行われました。

本海行人によって伝えられたと言われる「本海番楽」等16演目を講中、神楽獅子が披露。

約500人の観客はそれぞれの講中、神楽獅子の演目を真剣に鑑賞していました。



先例地生活再建実態調査

～ 山形県綱木川ダム～

鳥海ダム実施計画調査における水没関係者等を対象に、平成19年度の先例地生活再建実態調査を行いました。この実態調査は、将来の移転を円滑に進めるため当所で委託し、由利本荘市が実施しているものです。

今年度は8月30日～31日に綱木川ダム（山形県米沢市内）で調査を行い、水没関係者等28人が参加しました。

米沢市内で行われた意見交換会では、綱木川ダムから多数の関係者にご出席いただき、貴重な体験談等の説明を受け、熱心な情報交換が行われました。

また、現地調査では古山綱木川ダム建設事務所長はじめ職員の皆様からダムの説明や移転地の案内をしていただきました。



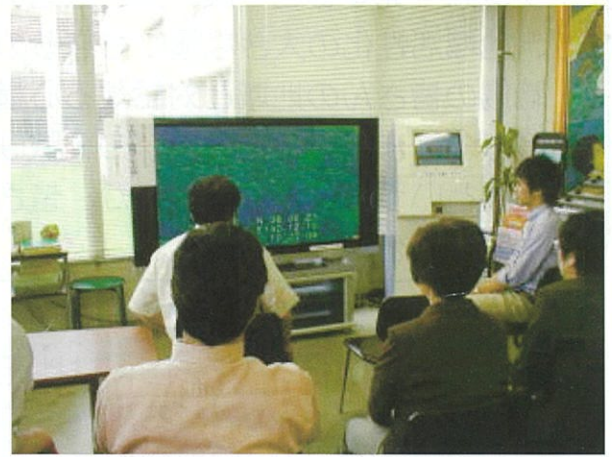
鳥海ダムの流域調査を上空から実施

～東北地方整備局防災ヘリ(みちのく号)にてフライト～

9月26日に、鳥海ダムの流域調査を東北地方整備局の防災ヘリにて実施しました。

今回のフライトは、鳥海ダムの流域及び子吉川沿川の調査を行い、鳥海ダム調査事務所が現在検討を進めている環境影響評価の現地調査も兼ねて行いました。

また防災ヘリによる防災映像配信訓練（由利本荘市役所で受信）も同時に行い、非常時の自治体との連携も確認しました。



夏期実習生紹介

大学生・工業高等専門学校生に国土交通行政への理解を深めてもらうため、東北地方整備局の各機関では毎年夏に学生を受け入れています。今年は9月10日～14日に秋田大学から元気な実習生がやって来ました。実習生は現地調査や資料をもとに鳥海ダムがもたらす地域への影響についてまとめ、最終日に成果発表を行いました。



【秋田大学工学資源学部土木環境工学科3年 小林さやか】

国土交通省鳥海ダム調査事務所にインターンシップを受け入れていただきました。実習では、ダムと地域の関わりについて研修を受けました。研修の中では鳥海ダムのダムサイト予定地の見学や岩手の御所ダム視察に同行させていただきました。職員の方からダムの底に沈む集落の方々のお話などもお聞きし、とても貴重な体験をすることができました。また、公務員の職場を見る経験は初めてでしたので、とても新鮮でした。研修の中で、“ダム事業がもたらす地域への影響（工事中・完成後・地域づくり・観光等）”というテーマでレポートを行い、最終日に職員の皆さんの前で発表をさせていただきました。

ダムは一見すると一般市民とは遠い存在のように思われがちなところもありますが、地域活性化の大きな糧にもなるのだということ学びました。

職場の皆さんの地域と対話する心構えと、それに対する創意工夫とを肌で感じる事ができました。このたびの経験は、進路選択の布石となったと感じています。一週間という短い期間でしたが、皆さん本当にありがとうございました。鳥海ダムの早期完成を願っています。

編集 後記

秋田わか杉国体は地元選手の活躍により秋田県の総合優勝という快挙で締めくくることができ、県民に感動と希望を与えてくれました。今夏は、局地的な集中豪雨で子吉川、芋川等の市内各所で被害が発生しました。当鳥海ダムを含めて、早急に河川の整備が求められていると感じております。

編集・発行

国土交通省東北地方整備局鳥海ダム調査事務所



ISO 14001

〒015-0074 秋田県由利本荘市桜小路32-1 TEL.0184-23-5120 FAX.0184-23-5451

ホームページアドレス: <http://www.thr.mlit.go.jp/chokai/> e-mailアドレス: chokai@thr.mlit.go.jp